

県広報

1991
No.273

10

とよ



特集/人間と自然のかかわり方を学ぶ拠点

立山博物館11月1日オープン

県庁探訪/ 労政課

ふるさとみてある記/ 下村

てんこ盛りの御飯

華道家 岡崎 忍

「ごはんですよ」の声に、「はい」と五歳の長男が使い込んだケヤキの飯櫃を取りだし、銘々の茶碗に炊き立てのごはんを盛る。ほんの小さい頃から、炊き上がりの釜から白い湯気と馥郁とした香りが一体となって湧きあがるように立ち昇るのを見るのが大好きだった彼の、これは担当である。父ちゃんはず、「いっぱい」という訳で、本日もてんこ盛のつやつやの御飯を幸せに戴くことになる。

雑誌によると茶碗一杯分の米粒は七〇g、コシヒカリで四五円相当とのこと。多分東京価格

に入りの甘みの少ない醤油、刺し身に甘い醤油はどうもいただけない。築地の店に嫁に行った妻の友人から業務用の輕節が宅配便で届く。このように調味料やだしにこだわり、旨いのまじいのと家族が食卓を共にしてお気に入りの味に作り上げてこそ、その実の味というものが出来るのである。このような思い入れは、美味しい御飯をより美味しく戴くだけのためであって、それ以上のものではないが、私にとっては大切な欲求である。

こんなに好きな御米を使って、広い空間に巨

だろーということ、我が家で計算すると四〇円、てんこ盛でも一杯八〇円。東京へ富山の米を運んでしまう私とすれば、やっぱり安くして旨いと納得する。旨さで言えば、茶碗一杯五円の差どころではない。御飯は米と水と火で炊くもの。生では飲めない東京の臭い水と、豊かな自然から恵み与えられる水との違いがさらにその差を大きくしている。

逆に私と共に東京から運ばれるものもある。淡い八丁味噌、信州味噌のたぐい、味噌汁の具によって味噌を変えまた味噌を合わせる。お気

大なオブジェを作ってみたいものだの仕事柄イメージが膨らむ。秋空に黄金色に輝く稲穂は、日本人にとってあまりにも身近で忘れがちであるが、何か私達の心を響かせるものである。植物素材としても、例えば水に付けずドライの状態になってもなかなか魅力的な素材である。このようなことを考えるのも、近頃ほとんど目しなくなつた稲の自然乾燥のびやかさ・力強さが、子供ながらも印象深かった為であろう。さて、夜も更けてきてまた腹が減ってきた。夜食に粉糖餅で一杯いただくとしよう。



ひと
アズ
とやま



暮らしをリフレッシュする香り

エレガアドバイザー 高須佳美さん

「チューリップの香水というのは世界的にみても珍しいと思います。でも富山県の人ですら知らない方が多いので、もっと親しみが持て、より利用してもらえようという工夫していきたいですね。八月一日から富山県花弁球根農業協同組合でエレガアドバイザーとして活躍している、高須佳美さんに、就任の抱負を伺いました。高須さんは香りの研究者（フレグランス研究者）として県内の第一人者であり、現在、マリエとやまで開催されている「センスアップセミナー」で「暮らしをリフレッシュする香り」について講演するなど、TPOにあわせた香りの使用方法等、その効用と必要性について積極的に啓発を行っています。

「今は香りのある暮らしが求められています。また、ジャスミンの香りに安眠作用があるといった例でも分かるように、アロマテラピー（芳香治療法）といって、芳香による病気の治療法や、香りが精神面に与える効果に注目したアロマロジーの研究が盛んになってきました。芳香剤をインテリアに使用したり、ハーブティやハーブ料理など、香りはファッションを主とした衣だけでなく、食住にも深く関わってきています。自らもファッション関係の仕事やモデルなどを経験しているだけに、香りの効率的な利用について、適切なアドバイザーが好評の高須さん。確かに香りがいいと、心が落ち着いたり、気持ちが高揚してくるような気がします。

「香りは自分自身にとっても快感ですし、まわりも楽しくなります。チューリップの花びらから生まれた香水をはじめとするエレガ製品を生活に取り入れ、毎日をより心豊かに過ごすために、そして、自分をより魅力的に演出するために、利用して下さい。チューリップの香りが大好きと言う高須さん。見た目も大切な要素で、今エレガ製品のパッケージの改良等、そのイメージアップに取り組んでいます。今後、どのようなエレガが登場してくるのか、とても楽しみです。





うるおいとやすらぎのある農村環境整備をめざして

シンポジウム「あすの農村を考える」

▼岩隈利輝氏



都市化の進展や、ライフスタイルの変化などに伴って、農村のもつさまざまな魅力が失われつつある今日、うるおいとやすらぎのある農村のあり方を探るシンポジウム「あすの農村を考える」が、八月二十一日、ホルファートとやまで開かれ、関係者約二百人が出席し、活発な討議が展開されました。

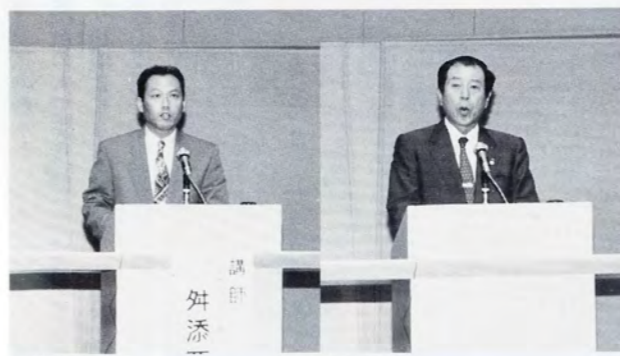
まず、日本工業大学専任講師の岩隈利輝氏が基調講演を行い、日本と西欧の農村を比較しながら、その将来あるべき姿や、今後の整備を進めるうえでの手がかりについて提言を行いました。

続いて、長井真隆富大教授、堀田稔農地林務部長ら八人がパネラーとなって、水を利用した環境の整備や景観づくり、人情にあふれた村づくりの必要性など、農村に対する期待や問題点について、多くの意見が交換されました。



環日本海交流のあり方を探る

21世紀シンポジウム開催



▲舛添要一氏

▲中沖知事

「世界、日本そして富山」をテーマに、二十一世紀シンポジウムが、八月十二日富山市民プラザで開催されました。

中沖知事のあいさつに続いて、国際政治学者の舛添要一氏による基調講演が行われました。舛添氏は、東京一極集中が進む今日、富山県がどうあるべきかについて、一県だけでなく、より広い、地域としての発想の必要性、人材育成のための特色ある大学の設置やこれからの海外との交流など、八つの提言を挙げました。

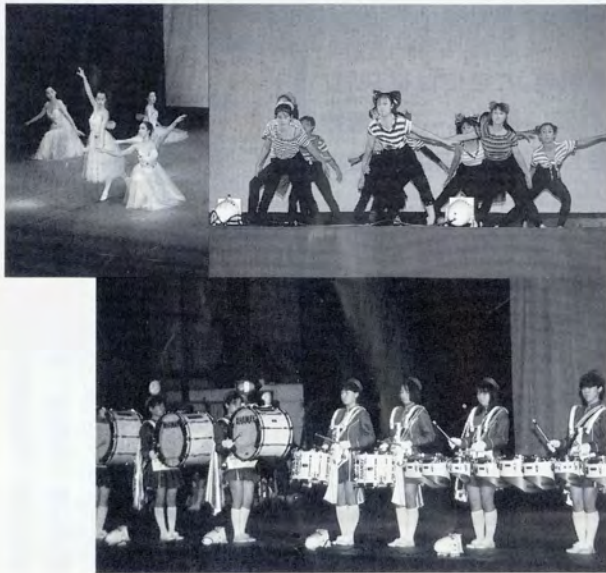
その後、舛添氏をコーディネーターに、秋野豊筑波大 学助教授、草野厚慶応義塾大学教授、国分良成同大学助教授、三山秀昭読売新聞秘書部長、茂木敏充アンドリュースインターナショナルマネジメント代表取締役、小沢伊弘アイバック代表取締役によるパネルディスカッションが行われ、熱のこもった意見が交換されました。

40回 富山県芸術祭記念式典



文化の輪を広げよう

第40回富山県芸術祭記念式典・平成3年度県民芸術劇場



今年で四十回目を迎えた「富山県芸術祭」の記念式典が九月七日、県民会館ホールで行われました。式典では可西希代子富山県芸術文化協会会長があいさつ。中沖富山県知事が祝辞を述べました。この後、芸術祭の振興に貢献した人々の表彰が行われ四十周年を祝いました。

引き続きより多くの県民に芸術・文化に親しんでもらおうと、今年度からスタートした県民芸術劇場が開催されました。女声合唱団クール・クローア、富山商業高校や藤園女子高校の吹奏楽部がそれぞれ華麗に力強く、見事なステージを披露しました。また、翌日の洋舞の部では、県内九つの舞踊研究所のメンバーによる「四季の手紙―星になった娘へ」が演じられました。幻想的で優美な舞いに、会場を埋め尽くした歓衆はうっとりとして見入っていました。



目で見て、肌で感じた富山に提言

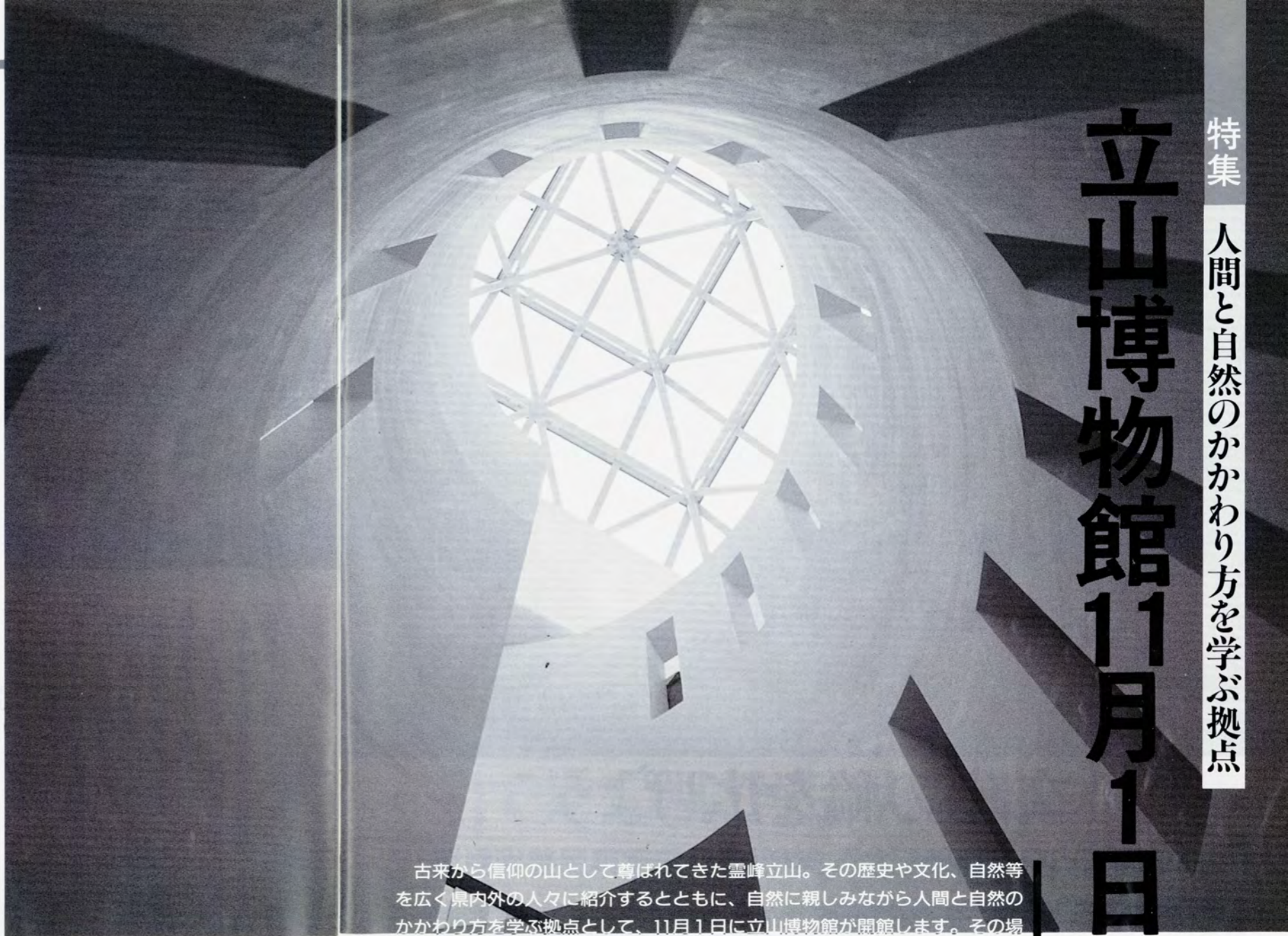
'91ライブとやまティーチン



マスコミや旅行代理店に就職を希望する東京の大学生十九人と富山県立大学生五人の計二十四人が参加して、今年もライブとやまティーチンが開催されました。東京の大学生に「生の富山」を体験してもらい、率直な感想や提言をもらおうとともに、将来にわたって富山を「応援」してもらおうと企画されているもので、今年で六回目となりました。八月二十六日から二泊三日でおわら前夜祭や近代美術館、海王丸、瑞泉寺や劇団SCOTの練習風景などを見学した後、中沖知事、吉崎県民カレッジ学長を交えてのティーチンとなりました。

ティーチンに参加した学生の間からは、「東京ですつと生活してきて忘れていたものを、富山で思い出しなかつた」といったものから、「富山県はこれだといふ強い個性がない」「富山のいいところあまり知られていない」といった少し辛口の意見まで、様々な要望・提言が出されました。中には、「いっそのこと富山は何もPRしない方がよいのでは。誰にも何も教えないこと」によって、逆に興味をもってもらおうという方法はどうか」といったユニークな意見を出す学生もいて、会場が爆笑の渦となった一幕もありました。

立山博物館11月1日オープン



古来から信仰の山として尊ばれてきた霊峰立山。その歴史や文化、自然等を広く県内外の人々に紹介するとともに、自然に親しみながら人間と自然のかかわり方を学ぶ拠点として、11月1日に立山博物館が開館します。その場所は、かつて立山信仰の中心地として栄えた立山町芦峯寺。ここには従来「立山風土記の丘」として、資料館やかもしか園が設置されていました。立山博物館はこれら施設に加え、新たに展示館や眺望館を建設し、周辺一帯を分散型総合施設として整備されたものです。

新設の展示館や眺望館は、どちらもバルセロナオリンピックの施設や利賀フェスティバルの舞台となった野外劇場、利賀山房をはじめ、水戸芸術館やロサンゼルス現代美術館など様々な文化施設の設計にあたってきた、磯崎新氏の手によるものです。また、博物館がオープンした後も、立山信仰の雰囲気を追体験できるように野外施設等、周辺一帯の整備を進めます。

今回は、県民の熱い期待に応えて生まれた立山博物館について、その内容と特色を紹介します。



▲眺望館

1、構成

立山博物館は次の三つのエリアを中心として、その他街並み景観を含めた屋内・野外の施設によって構成されています。

- ① 学習エリア
 - ・ 資料館、展示館、教算坊など、展示を中心とする「教界」
- ② 体験エリア
 - ・ 眺望館、布橋、えんま堂など、立山信仰の雰囲気を追体験する「聖界」
- ③ レクリエーションエリア
 - ・ かもしか園、有馬家等歴史的民家など、自然・生命とふれあう「遊界」

2、施設の概要

① 展示館

展示館は立山博物館の中心施設として、各施設へのインフォメーション機能を持っています。

内容は常設展示室、企画展示室、ガイダンスルーム、各種映像・情報設備等を備え、調査・研究・学習など総合的な「立山学」の拠点としての役割を担います。

展示館は、らせん階段を組み込んだピラミッド型の三階建てで、一階中央のらせん階段から一気に三階まで昇り、三階(自然展示室)、二階(人文展示室)、一階(企画展示室)の順で見学ができます。

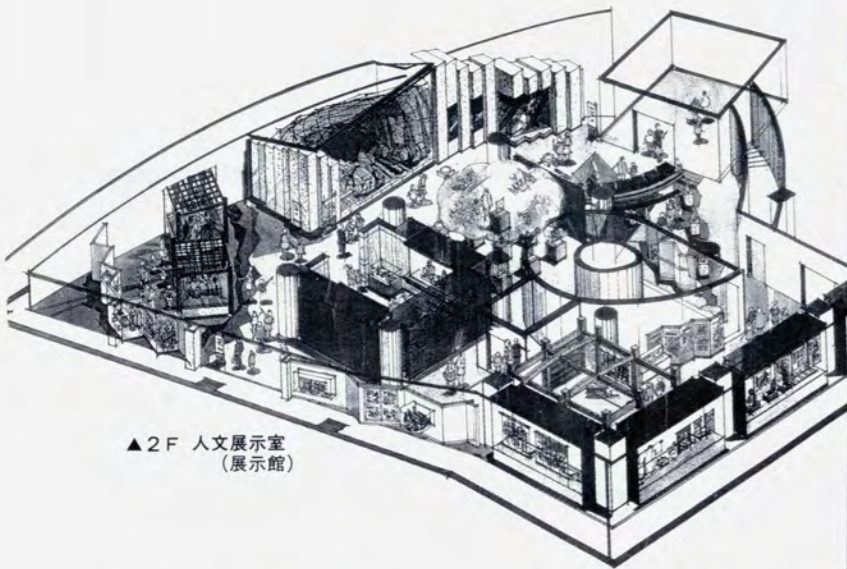
三階の「立山の自然」、二階の「立山信仰」に関わる展示は、レプリカやジオラマ、映像・音響設備等の特性を生かした臨場感あふれるものとなっています。特に「ブナの森」や立山信仰の舞台となった「布橋灌頂会」、「玉殿の窟」などのジオラマは、とても見ごたえがあります。

◎ 3F 自然展示室(常設展示1:自然)

立山信仰の基礎となった「気高き・育みと潤い・試練と厳しさ」という視点から、立山の自



▲展示館



▲2F 人文展示室 (展示館)



▲3F 自然展示室 (展示館)

●開館時間/午前9時30分から午後5時まで(入館は4時30分まで)
●観覧料

区分	一般	高・大学生	小・中学生
展示館	300円 (240円)	240円 (150円)	150円 (90円)
遙望館	100円 (80円)	80円 (50円)	50円 (30円)

()は20名以上の団体料金
●休館日/毎週月曜日(月曜日が国民の祝日に当るときはその翌日)
●施設使用料(茶会・会合などにご利用下さい)

種別	9:30~16:00	9:30~12:00	13:00~16:00
教養室A	1,500円	680円	820円
教養室B	1,800円	820円	980円

【問合せ先】
富山県立立山博物館
〒930-114
富山県立山町芦峯寺93-1
☎0764-81-1216
FAX0764-81-1144

3、利用案内

- ③資料館
立山に関する資料等を収集保存し、来館者に利用してもらうほか、民俗資料を展示します。
- ④教算坊
旧佐伯邸(旧宿坊)の遺構を活用し、文化サロンの場とします。
- ⑤立山風土記の丘施設
かもしか園、有馬家、嶋家などがあり、自然・生命と解れ合う遊界、レクリエーションエリアとします。

- 立山開山にまつわる伝説を紹介します。
- 立山に地獄あり
立山地獄の思想を解説し、極楽往生を願う人々の気持ちに迫ります。
- おんばさまに寄せた心
全国でも数少ない、女性往生をかなえる、儀式や信仰のあり方を再現します。
- 広まる立山信仰

◎2F 人文展示室(常設展示Ⅰ・人文)

立山に寄せた人々の心や、登拝の様子、精神的世界を通して立山信仰の歴史的特徴を展示します。

- 立山信仰の世界
奈良時代から、神の山とされてきた立山。その最終目的地である頂上社殿とそれを取り巻く自然の厳しさを紹介します。
- 立山が開かれる
立山開山にまつわる伝説を紹介します。
- 立山に地獄あり
立山地獄の思想を解説し、極楽往生を願う人々の気持ちに迫ります。
- おんばさまに寄せた心
全国でも数少ない、女性往生をかなえる、儀式や信仰のあり方を再現します。
- 広まる立山信仰



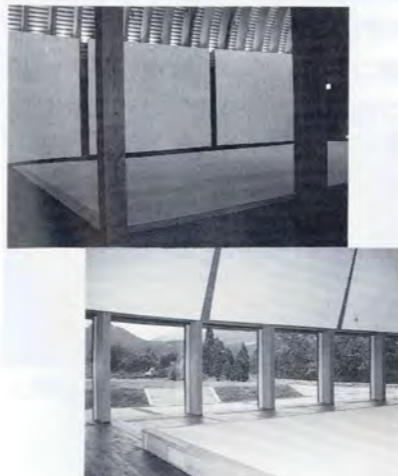
“立山博物館開館特別企画展”開催

立山のこころとカタチ—立山曼荼羅の世界—

- 場所 立山博物館展示館
- 日時 11月1日~12月8日

立山曼荼羅は立山信仰を凝集したものと表現され、その布教に重要な役割を果たしましたが、この曼荼羅には芦峯寺や岩峯寺の人々のいろいろな思いがこめられています。

本展では、立山信仰の「こころ」を「カタチ」の上で表現した「立山曼荼羅」など約30点を一堂に展示し、「立山曼荼羅」が立山信仰の布教において果たした役割、その内容、作成の背景など広い視点に立って紹介します。



◎1F 企画展示室・ガイダンスルーム
立山に関する企画展示や、講演会などを開きます。(映像施設も、用意しています)

②遙望館
遙望館は映像・音響設備を効果的に取り入れ、立山の大自然や、先人の立山に寄せた想いを現代人の感覚の中に再現する場として、建設されたものです。中でも映像ホール(客席三十六畳敷)では昇降式映写スクリーン(五・〇メートル×四・二メートル)三面がセットされ、瞑想の場として、また、立山連邦の大パノラマを遠望する場として、観覧者の自由な発想を促すところとなっています。

また、観客席が昔のお堂を再現したような畳敷きになっているのも特徴の一つで、小集会やガイダンス等の目的にも利用することができます。

諸国配礼を通して、全国に布教された立山信仰の広がりや、曼荼羅の解説などをします。

凧あげ



FM UP TOMAMA

撮影／池端 滋

引綱が
ピーンと張り
男達の心が
ひとつになるとき

大凧に魅せられた
男達の夢が
大空に
舞いあがる



豊かな勤労者生活の実現 ためて

レポーター：小松 則子(ミスひみサンライズ)

わが国は欧米に比べ労働時間が長く、内外から「働きすぎ」との批判も受けています。仕事一辺倒から仕事とゆとりのバランスのとれたライフスタイルの確立が今、求められています。労政課では、労働時間短縮へのムードづくりを行っているほか、労働条件の改善や福祉の増進など、勤労者生活の充実のため、いろいろな事業を行っています。

私たちは、この世の中に生まれてきた以上皆働かなくてはなりません。人生八十年が現実のものとなった今、求められているのは勤勉で質の高い労働とゆとりある生活です。県民の勤労生活の充実と向上のため、努力しているのが労政課です。私にとってもこのことは、大事なことなので大変興味をもって訪問させていただきました。

労働時間短縮に向けて

今年四月から週四十六時間だった法定労働時間が四十四時間に短縮されました。しかし、日本の労働時間は欧米先進国に比べ、年間二、五百時間も長いそうです。そのため、生活の中のゆとりを実感できない国民というイメージを世界に与えています。

さて、富山県についてみてみたいと思います。日本開発銀行が行った「日本全国、どこが本場に豊かか」という調査では、富山県は全国二位となっています。この調査は、「所得・時間・空間のゆとり」などを基礎データにしていますが、富山県は、この「時間のゆとり」に関しては、十四位にあるという結果がでています。今年七月に労働時間短縮推進事業として、「ゆとり推進県民会議」が設置されました。そこでは毎年十一月の第三日曜日(家庭の日)の前日の土曜日を「ゆとりの日」にすること、また、誕生日や結婚記念日を「メモリアル休暇」、地域の福祉活動などに参加する日を「ボランティア休暇」とし、

普及、推進していくこと等を決めたそうです。労政課の五島課長さんは、私に、「自分も率先してこの課の人達に休暇をとることを勧めているのだが、あなたも遠慮せずにとってください」と言われました。

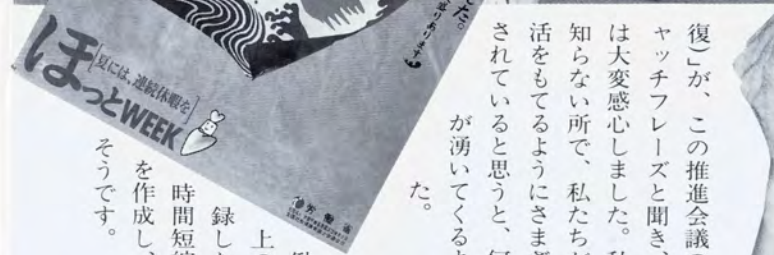
ちなみに、「ゆ・と・り」の頭文字を取った、「ユートピア(理想郷)富山をめざし、トレンディセンス(最新感覚)でリフレッシュ(元気回復)」の頭文字を取った、「ユートピア(理想郷)富山をめざし、トレンディセンス(最新感覚)でリフレッシュ(元気回復)」

山をめざし、トレンディセンス(最新感覚)でリフレッシュ(元気回復)



復)が、この推進会議のキヤッチフレーズと聞き、私は大変感心しました。私の知らない所で、私たちがゆとりある生活をもてるようにさまざまな応援がなされていると思うと、何となく働く力が湧いてくるように感じました。

労政課では、業種ごとの労働時間短縮実施上のポイントを収録した手引書「労働時間短縮のポイント」を作成し、配布しているそうです。



より幅広い利用者へのサービスに心がけていくそうです。

働く女性のために

富山県の女性の就業率(女性15歳以上人口に占める女性有業者の割合)は全国五位の五十五・一%で過半数を超えています。私自身の職場も、どちらかといえば女性の多い職場です。労政課では、働く女性のために講座・講演・ディスカッションの場を多く設けたり、「働く女性のつどい」を開催し、婦人の労働意識の向上と能力開発に力を注いでいるそうです。私も働く女性として、腰かけ的な仕事でなく、一生懸命精励して、自分自身を磨く場を失わず、生きていきたいなあと思いました。

この他労政課では、広く県民に親しまれている「勤労者いこいの村」の運営や、全国勤労者綱引大会など勤労者の生活の充実のため、いろいろなことをやっています。いこいの村では、来年の三月までに障害者棟等増築が予定され、



今回の取材は、少し不安でしたが、五島課長さんの適切な案内とアドバイスで、充実した時間をもつことが出来ました。また、自身の個人的な視野からの探訪にすぎないので、いろいろと、とりこぼした点もあるかもしれませんが、私にとって今回の訪問は、大変、楽しい一時であったことは間違いありません。二十一世紀へ向けて私たち勤労者は、健康でかつ充実した生活を送り、一人ひとりがそれぞれの立場で社会に貢献していこうではありませんか。



下村

下村に伝わる奇祭『稚児舞』

下村に秋を告げる奇祭、下村加茂神社の「稚児舞」が、今年も九月四日に行われた。村の小学校三年生の中から選ばれた四人の稚児たちが、一曲一曲衣裳をかえながら九曲踊るというお祭り、約九百年の歴史を誇る。

この稚児たちの踊りを、なんと四十五年間にわたって見つけてきた人がいる。吉久一夫さんは、昭和二十二年からこれまで延べ百八十人の稚児たちに踊りを教えてきた。舞台のソデで太



稚児舞の師匠▶
吉久一夫さん

鼓をたたきながら稚児たちの踊りを見守る表情は真剣そのもの。「毎年、本祭が終わった後、稚児たちといっしょに記念撮影するがけれど、やっぱり昔の写真見とつと、歳取ったと思うわ。」と笑いながら話す吉久さん。「もうこんで四十五年も踊り教えるから、中には親子二代にわたって稚児をつとめたという家もあるちゃ。これまで、お祭りが中止になったことは一度もなかったそうで、雨に降られたのも二、三回だけ。お祭りの十日くらい前から踊りの練習をするそうだが、「子供たちちや全然言うこと聞かんが。でも、踊りを一通り練習すると三時間くらいかかるから、十日間言うても通して二十回くらいしか練習できんが。そやから厳しく教えるね。」という吉久さんはもう七十歳。「歳とってきたら、はや、子供たちに教えるがだやうなつてしても、そやけど今の若いもんは、みんな動きに出るから、後継者いうてもねえ。」と声をおとす吉久さんの顔には、くつきりとしわが浮かぶ。

「カットンドのおじいちゃん。取材中に子供たちの元気な声。「祭り終わるまでなかなか休まる暇ないちゃ。これからは吉久さんにはお元気で、稚児舞の合の手である「カットンド」のおじいちゃんとして村の子供たちに親まれていってもらいたいものである。」



▲お茶うけにピッタリ「やぶさめせんべい」

下村の概要

人口 2,050 人(8月1日現在、県人口統計調査より)
面積 5.15km²

春の「流鏝馬」や「牛乗式」、秋の「稚児舞」など、珍しい神事を数多く伝承する村。加茂神社の隣には、一般の人でも乗馬を楽しむことのできる馬事公園がある。



▲やぶさめせんべいの生みの親安達佐智子さん。

の収穫が終わったあとに転作で作る大麦を使って、何か特産品を作ろうということになったんですよ。五年前の料理コンテストで、下村の主婦が作った大麦のクッキーがきっかけとなって、大麦せんべいの開発に取り組みむようになった。「大麦はそのままでも少し甘みのある穀物なので、絶対せんべいにもむいておられると思うんですけど、ねばりがないので、なかなかせんべいとしての歯ごたえが出せなかったんです。でも苦勞のかいあって、こんがり焼き上げることによって成功。そのあっさりとした甘みとサクサクとした歯ざわり、そして原料が大麦百%ということ、折からの健康食品ブームにも乗り、一時は生産が追いつかないくらいに売れた。国からの「村おこし基金」の補助も受けて、今ではせんべいの種類も、みそ味や生姜味など六種類に増え

た。現在は、「やぶさめファミリー」という第三セクターの会社で、このせんべいや、下村のおいしい米を使ったます寿しなどを限定販売している。「せんべいの味には自信があるんです。村の特産品としてぜひ根づかせたいですね。」という安達さん。このせんべい一枚一枚に、下村の人の熱い思いがこもっている。

鉢植えの万年青の花に水をやるこぼるるばかりに香を放つ

万年青(おもと) 井原憲吉さん

皆さんは万年青(おもと)という植物をご存知だろうか。ユリ科の多年草の植物で、白い線の入った肉薄の葉が、まるで羽子板の羽根のように入生える。三百年前、徳川家康が江戸に入城する前にこの万年青を植えてから入城したという故事に基づいて、今でも、「引越しおもと」として珍重されている植物である。この万年青を三十年にわたって研究栽培している井原憲吉さんを訪ねた。

「とにかく万年青というのは種類が多くて、日本万年青協会に登録されとるものだけでだいたい三百、でも実際はそれこそ数千種類くらいあるがなんかなあ。」という井原さんは「王朝」と「蘇宝」という二つの新品種を開発、登録された。



▲万年青(おもと) 研究者井原憲吉さん

「実生の研究(新品種の研究)をしとつても、一生のうち一本でも登録できればいい方。それを三十年もやってきたんやから、ほとんど時間のムダやつたかもしれんね。」と言う井原さんでも、鉢植えの万年青を見る井原さんの眼は、まるで初孫を見るように、限りなく優しい。「例えば、「獅子ちゅう品種は、根も葉もカーブルしとるし、「胡麻班」というのは、黄色い葉っぱに、まるでごましおをふつたように、緑の斑点が入る。とにかく、一枚一枚の葉の模様、しわ、生え方、すべてが芸術なんです。世界広しといえども、こんなに種類が多くて、しかも葉一枚一枚が「芸をする」植物は、この万年青だけでないかなあ。」この万年青の研究の他にも、書や絵画など多彩な趣味を持つ井原さん。「いろんな趣味を通して、今の日本人が忘れかけると「美的感覚」を養いたいと思っただけ。」と言うそのひたむきな姿勢に、すっかり感心してしまつた。

全国防犯運動のお知らせ

10月11日金から20日までの10日間、
全国防犯運動が実施されます。

今年の運動の重点は、次の3点です。

○暴力追放（暴力団の排除）

市民を巻き添えにした抗争事件など違法行為を繰り返す暴力団の排除活動を行い、犯罪のない明るい社会を築きましょう。

○少年の非行防止

少年の非行を誘発するような有害環境を無くし、温かい声かけにより少年を非行から守りましょう。

○コンビニエンスストア

防犯対策の推進

防犯体制や防犯設備の整っているコンビニエンスストアが、防犯基準適合優良店マークを表示しています。この適マークをつける店を増やし、強盗事件の未然防止に努めましょう。



薬についての正しい知識や医薬分業制度などについて広く県民の皆さんに知っていただくために、「薬と健康の週間」が10月17日から23日までの一週間実施されます。

近年、健康への関心の高まりにつれて、より質の高い医療が望まれています。そういった中で医師と薬剤師の、協力による「医薬分業」制度が注目されています。これは病院などで、医師の診察を受けた際、薬をもらうかわりに「処方せん」をもらって、街の保険薬局へ持っていく、薬剤師に薬を調剤してもらい、薬を飲むという流れです。病院などでの薬を受けとる待ち時間が解消されるとともに、薬剤師から薬について十分説明を受けられるなどメリットの多い制度です。

医薬分業とは

10月1日～7日までの一週間は、「全国道路標識週間」です。

道路標識は、ドライバーや歩行者の皆さんのために、目的地までの距離や走っている道路が正しいかどうかなど、多くの情報を提供し、道しるへの役割を果たす大切なものです。富山県では、見やすく、わかりやすい道路標識の設置に心がけていますが、

より良いものとするためには、利用されている県民の皆さんのご意見が欠かせません。道路標識について、お気づきの点があれば、お気軽に富山県庁道路標識BOX係（県庁道路課 ☎0764・31・4111 内線4074）にご連絡下さい。



◆軽油引取税とは

この税は、主にバスやトラックなどのディーゼルエンジンの車の燃料として使用されている軽油の引取りに対して、千リットル当たり二万四千三百円の割合で課税される地方税で、県内の道路や橋の建設、整備の費用にあてられます。

◆灯油等への識別剤

（クマリン）添加について

近年、軽油に灯油等（灯油またはA重油）を混入してディーゼル車の燃料として使用し、混入した灯油等についての軽油引取税を支払わないケースが見られます。このような脱税行為を防止するため、今年の3月末より、灯油等に識別剤であるクマリンが添加されています。これにより、軽油に灯油等が混入されているかどうか容易に判別できるようになりました。県では路上等で軽油を採取し、クマリンが入っていないかどうかの調査を行っていますので、御協力ください。なお、詳しいことについては、最寄りの県税事務所へおたずねください。

“お米”は、市町村許可販売店で買ひましょう。

米の小売業務を行う者は食糧管理法により市町村長の許可を受けなければならないことになっていきます。毎日食べるお米ですから、信頼できるお店で品質等が保証されたものを買ひましょう。



これが安心・信頼のマークです。

ご存じですか、Sマーク

理容店、美容店及びクリーニング店のシンボルマーク3つのSをお約束する「Sマーク」です！

理容店、美容店及びクリーニング店に掲げられている「Sマーク」は、厚生大臣認可の標準営業約款に従って営業しているお店の表示です。

このSマークを店頭に掲げているお店は、全国どこでも、約款で決められた基準以上のサービスが保障されます。

お約束する3つのSは、次の内容です。

Standard

(標準)

確かな技術。きめ細かな対応など、お客様に提供するサービスの種別・内容を明確に表示。その実施をお約束いたします。

Safety

(安全)

まかせて安心。万一事故が発生した場合、事故賠償基準に基づき、お客様に損害賠償を行います。

Sanitation

(衛生)

美しく清潔に。厳しい管理基準に従い営業施設の維持・管理を行い、お客様に気持ちのよいサービスをお約束します。



標準営業約款制度についての詳しい内容などのご照会については、全国環境衛生営業指導センター（電話03-3351-2381）または富山県環境衛生営業指導センター（電話0764-42-0285）へお問い合わせください。

麻薬・覚せい剤撲滅運動(10月1日～11月30日)



麻薬・覚せい剤・シンナー等の薬物は、乱用すると、個人だけでなく社会にも計りしれない害をもたらす非常に危険なものです。これらの薬物は、続けて使用すると中毒になり、薬物を入手するために家財を売ったり、あるいは窃盗、詐欺などの罪を平気で犯すようになります。さらに、中毒が進行すると妄想や幻覚によって殺人、放火等の重大犯罪を起こしたり、また、薬物の影響により精神的、肉体的障害が長く残ることがあります。

このような乱用に対処するため強力な取締りを行うことはもちろんですが、県民自身が薬物の恐ろしさを十分認識し、その撲滅に取り組んでいくことが大切です。皆さんの御協力をお願いいたします。

「秋の薬草に親しむ会」

富山県薬用植物指導センターでは、皆さんに薬草に親しんでもらうため、次のとおり「秋の薬草に親しむ会」を開催します。皆さんの参加をお待ちしております。

日時 10月18日(金)午前9時30分から午後3時30分まで

場所 富山県薬用植物指導センター
内容 午前 薬草の育て方と使い方
(講義)
午後 薬草標本園の案内
薬用酒の作り方

定員 60名
参加費 無料
携帯品 筆記用具 昼食

お問い合わせ、お申し込みは、富山県薬用植物指導センター(0764・72・0801)までお願いします。なお、定員になり次第、締切らせていただきます。

第37回一陽展・富山展

— 県民会館美術館 —

一陽会は、昭和30年に、鈴木信太郎、高岡徳太郎らにより結成され、絵画・版画・彫刻の3部門の全国公募展を毎年秋、東京都美術館で開催しています。今回の富山展では、今年の第37回展から選抜された作品に北陸在住の会員の作品を加えた約120点を展示し、一陽会の活動の現況を富山で初めて紹介するものです。

会期 10月25日(金)～11月10日(日)会期中無休
時間 午前9時～午後6時
会場 富山県民会館美術館
入場料 一般520(410)円 生徒・児童260(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び前売・割引料金

問合せ 富山県民会館文化事業課文化係
0764・32・3111(内)251

'91県民オーケストラ演奏会

今年で6回目を数える県民オーケストラ演奏会は、指揮者として新たに吹奏楽、オペラ合唱で知られる汐澤安彦氏を迎え、来たる10月27日(日)午後2時より、富山県民会館ホールで開催されます。

曲目は「アルジェのイタリア女(ロッシニ曲)」、「交響曲第40番(モーツァルト曲)」、「交響曲第5番(チャイコフスキー曲)」です。
入場料は、児童・生徒は五〇〇円、学生・一般は、一、〇〇〇円です。

問合せ先 富山県オーケストラ連盟事務局
0764・93・0707
県教育委員会文化課 0764・44・3455

第1回生涯学習国際シンポジウム in TOYAMAの開催

日時 平成3年10月29日(火)
午前10時～午後5時

場所 富山第一ホテル3階

内容 欧米先進国から著名学者等を招いて、「ゆとりと豊かさ」を実感できる生涯学習社会の実現の方策をテーマに国際シンポジウムが開催されます。
(プログラム)

講演 関本忠弘(日本電気株式会社、フランソワーズ・モレシャン、中沖豊富山県知事ほか)

パネルディスカッション 森隆夫(お茶の水女子大学教授、水野正人(ミズノ)社長、リチャード・コーンスタム(米国太平洋北西部スキー連盟会長)ほか

申込先 富山商工会議所
0764・23・1111

富山県立大学公開講座 「21世紀にはばたく新素材の開催」

富山県立大学では、教育研究の成果を広く社会に開放するために公開講座を開催します。

本講座では、21世紀に向けハイテク社会を担うことが期待される新素材の現状と将来について分かりやすく講義します。

場所 富山県立大学大講義室

定員 150名程度(受講無料)

申込方法 はがき、電話、ファックスにて
申込締切 10月12日(土)

申込・問合せ先 富山県立大学事務局教務課情報研究係(射水郡小杉町黒河) 0766・56・7500
FAX 0766・56・6182

(講義スケジュール)

11/16	11/9	10/26	10/19	月日	題 目
2部	1部	2部	1部	10/19	これも金属/あれも金属/やはり金属/4000年の闘りから見た金属系新素材
1部	2部	1部	2部	10/26	薄膜・はくまく……なぜ今薄膜が注目されているのか。急速に拡大する薄膜材料研究の分野。超LSIから超電導、ダイヤモンド、etc.
1部	2部	1部	2部	11/9	半導体の未来・アモルファス。面白いけど、分らないけどそれでも使える変な材料
2部	1部	2部	1部	11/16	セラミックス、バリバリ削ろう、ツルツルにセラミックスの高機能・超精密研削加工
1部	2部	1部	2部	11/16	ハイテク社会を担う新素材:ファイナセラミックス
2部	1部	2部	1部	11/16	軽くしなやかに、そして強く/ポリマー系新素材の力学特性
1部	2部	1部	2部	11/16	ソフトエレクトロニクス材料
2部	1部	2部	1部	11/16	レーザーをめぐる新素材・新デバイス・新技術

富山県立大学

「芸術講演会」の開催

日時 10月23日(水)午後1時30分より
場所 福野文化創造センター(福野町寺家新屋敷)

講師 明治大学理工学部 向殿 政男教授
演題 ファジィあいまいの科学

要旨 あいまいを意味するファジィという言葉が流行語となり、ファジィの名をつけた電化製品が人気を集めるなど、人間の主観を取り入れたファジィ技術が注目されています。なぜファジィなのか、どのようにあいまいを科学するか「ファジィ理論がわかる本」の著者がわかりやすく語ります。

入場料 無料
問合せ先 富山県立大学
0766・56・7500

富山県埋蔵文化財センター展示室

特別企画展「貝塚―縄文ムラの風景」

縄文時代の貴重な情報源といわれる貝塚に残された、県内外の考古資料から、当時の人々のくらしや自然のかわりかたを考えます。

期間 平成3年10月29日(火)から11月30日(土)まで
会期中休館日なし

入場無料
詳しくは、富山県埋蔵文化財センター
0764・34・2814まで

「日本食品衛生学会第62回学術講演会」開催案内

10月24日～25日、富山県に全国の食品衛生等に携る研究者が集い、食品衛生等に関する研究報告やシンポジウムが行われます。一般県民を対象にした公開講演も行われますので多数のご来場をお待ちしています。

公開講演(無料):平成3年10月24日(木) 14:00～15:20
富山県民会館ホール

「隠れ肥満」の時代―いまの私たちの生活とからだ―
村上紀子氏(朝日新聞学芸部編集委員)

問合せ先 富山県衛生研究所 0766-56-5506

'91都市緑化月間講演会開催

緑豊かで潤いのある生活環境をつくるため、毎年10月を都市緑化月間としておりますが、その行事の一環として、講演会を行います。都市緑化についての、わかりやすい講演ですので、ふるってご参加ください。

日時 10月19日(土) 午後1～4時
場所 高岡市役所8階大会議室

料金 無料
問合せ 県庁都市計画課
0764・44・3348

県政の動き

平成3年8月11日～9月10日

8月12日 ソ連沿海地方スポーツ交流団表敬
21世紀研究会シンポジウム
第13回少年の主張富山県大会



8月15日 富山県戦没者追悼式

8月21日 農村整備シンポジウム

8月26日 '91ライブとやまティーチン(~28日)

8月29日 全国交通安全キャラバン隊メッセージ伝達式



8月30日 平成3年度防災講演会

8月31日 第9回北方領土返還要求富山県大会

9月2日 知事のまちなまり(砺波市)

9月3日 富山県総合防災訓練(小矢部市)

障害者雇用促進街頭キャンペーン

9月4日 食品研究所先端技術開発棟竣工式



9月5日 融合化ビジネスコンベンションinとやま

北陸新幹線整備問題検討会

中国遼寧省長表敬



9月6日 遼寧省投資セミナー

9月7日 海洋研修センター(仮称)起工式

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

富山県芸術祭第40回記念式典および県民芸術劇場

日曜大工教室の開催

内容 木肌のきれいな「ティッシュボックス」の製作

材料費 9000円

定員 30名

日時 10月6日(日) 9時より

内容 木のやさしさが伝わる「コーナーラック」の製作

材料費 3,500円

定員 30名

日時 10月20日(日) 9時より

問合せ ウッドリウム富山
☎0766・56・1570

「クラフト活動めぐり」のお知らせ

富山県砺波青少年の家では、11月9日(土)から10日(日)の1泊2日で自然の素材を利用したクラフト、七宝焼や和紙細工等の伝統クラフト、親子で楽しむクラフトなどバラエティーあふれるクラフト活動のつどいを行います。

- 対象・定員/小学生以上50名
- 費用/材料費など五百円程度
- 申込/往復葉書で10月25日金まで砺波市徳万字赤坂17の5「富山県砺波青少年の家」へ。

☎0763・372002

平成3年 11月街頭献血日程

日曜	場所	時間
2 土	砺波市ジャスコ砺波店前	10:00~15:30
3 日	細入村役場前	10:00~15:30
	婦中町古里公民館前	9:30~11:30
4 月	山田村中央公民館前	13:00~16:00
	福野町文化総合センター前	10:00~15:30
6 水	小杉町「バスコ」ショッピングセンター前	10:00~15:30
	福岡町役場前	9:30~12:00
9 土	魚津市サンプラザ前	10:00~15:30
10 日	富山市中央通り	10:00~16:00
11 月	滑川市役所前	9:30~12:00
16 土	富山西武デパート前	10:00~16:00
17 日	富山西武デパート前	10:00~16:00
18 月	大山町役場前	9:30~12:00
27 水	八尾町役場前	9:30~13:00
	八尾町中央公民館前	14:00~15:30
28 木	婦中町役場前	10:00~15:30

※富山県赤十字血液センター(富山市牛島本町)では、毎土曜日の午後も開所し(祝祭日除)、献血を受付けています。

いきいきとやま・第4回健康と長寿の祭典

『ヘルシーライフをめざして』
—適度な運動は健康への第一歩—

期間 10月22日(火)・23(水)

場所 県民会館(大ホール、ロビー、地下展示場ほか)

内容 ○健康運動発表会○記念講演○福祉・介護機器展示○老人若返り祭り芸能大会○高齢社会啓発ビデオ完成試写会○母乳育児研究会○健康運動実践教室○母乳相談○手

づくり健康料理実習○健康相談○各種展示(母子保健、がん予防、食生活改善、健康増進、精神保健、老人クラブ作品など)○健康増進車「ひまわり号」、健康運動体験巡回車「アセダス号」による健康づくり指導等

問合せ先 「いきいきとやま・健康と長寿の祭典」実行委員会(事務局:県庁建健康課、高齢福祉課)

平成3年 第2回巡回就学相談会の開催

心身に障害のある子供の健やかな成長を願って、心身の発達についての心配事や家庭でのしつけ、教育について専門的に相談する巡回就学相談会を実施します。

期日 平成3年10月15日(火)9時30分~12時
16時、10月16日(水)9時30分~12時

会場 富山県民会館

相談御希望の方は、幼稚園・保育所、小・中学校又は市町村教育委員会にお申し込みください。内容について詳しくお知りになりたい方は、市町村教育委員会、各教育事務所、県教育委員会指導課へお問い合わせください。

県教育委員会指導課
☎0764・44・3451

「留学生と語るつどい」参加者募集

◎内容 高校生と留学生との宿泊体験を通して、諸外国の文化・習慣・伝統などを身近に知り、国際化時代に生きる青少年の育成を図ります。

◎日時 平成3年11月9日(土)16時から10日(日)14時まで

◎場所 富山県二上青少年の家

◎定員 100名(県内高校生・留学生)

◎参加費 無料

◎申込先 高岡市二上鳥越20の1 富山県二上青少年の家
☎0766・21・0001

◎作品展 学習団体の作品
県民カレッジコーナー
著名講師色紙展示

▼問合せ先 富山県生涯学習カレッジ
☎0764・41・8635

青年海外協力隊隊員募集

国際協力事業団では開発途上国の新しい国づくりに参加する青年海外協力隊員を募集しています。

応募資格は、20歳から39歳までの青年男女です。派遣期間は2年間。農林水産から教育文化、保健衛生など約150種の職種があり、アジア、アフリカなどの開発途上国に派遣されます。

募集説明会
10月24日(木) 高岡文化ホール第4会議室
10月25日(金) 富山県民会館702号室
11月19日(火) 富山県民会館702号室

時間はいずれも午後6時~9時
※問合せ 学術国際課分室富山県旅券センター ☎0764・45・4581

第3回県民カレッジフェスティバル



◎記念講演会(午後2時30分)
講師 京都大学教授 高坂 正堯先生
演題 「変化する世界と日本」

いきいきとやま・第4回健康と長寿の祭典

『ヘルシーライフをめざして』

—適度な運動は健康への第一歩—

健康課、高齢福祉課

表2 エッセイ／岡崎 忍
P1 ひと／高須佳美
P2 クローズアップ

① 21世紀シンポジウム
② 農村整備シンポジウム
③ '91ライブとやまティーチン
④ 第40回富山県芸術祭記念式典
特集／立山博物館の概要
P6 地価調査

P12 PIN UP TOYAMA
撮影／池端滋
P14 県庁探訪／労政課
ふるさととみである記／下村
P18 県からのお知らせ

●表紙撮影／滝川邦彦(日本写真家協会会員)
今年度からスタートした県民芸術劇場の洋舞公演が九月八日、県民会館ホールで上演され、九つの洋舞団体が「四季の手紙―星になった娘へ」と題して、富山の春夏秋冬を優美に表現しました。舞台いっばいに繰り広げられる華麗な舞に、観衆はうっとりを見入っていました。



交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111内4400
相談110番
家庭問題・悪質商法・寛
せい剤など、どんな相談
にも応じます。
☎(0764)42-0110
シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、
悩みごとに富山県高齢者
総合相談センター
富山市舟橋南町5-14
社会福祉会館内
☎(0764)41-4110

消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18
安住町第一生命ビル内
(一般相談は)
☎(0764)32-9233
(金融相談は)
☎(0764)33-3252
消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1
本丸会館内
☎(0766)25-2777

県政については
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-4111代
31-3131(県民相談電話)
高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411代
魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311代
砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151代
物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。
☎(0120)16-7400 (県庁県民生活課内)

県からのホットニュース 見て、聞いて、ご意見をお寄せください。

<p>テレビ広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チューリップテレビ 毎週土曜日AM9:30~9:45 「志の輔・陽子のふるさとトーク」 ●北日本放送 毎週日曜日AM11:00~11:30 「こんにちわ富山県です」*翌日同時時間再放送 10/6 ようこそ富山キャンペーン 10/13 増産めざせとやま肉牛 10/20 新しい住まい作り 10/27 立山博物館オープン ●富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00~9:30 「112万人のひろば〜クイズ/フォーカス・イン」 	<p>ラジオ広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ●FMとやま 「ふれあいホットライン」 県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。 毎週月~金曜日 AM9:30~9:35 	<p>新聞広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ●北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日 毎月第2、最終土曜日 「県からのお知らせ」
---	---	--

編集後記

♥「若いうちからいろいろ趣味を持つとったほうがいいよ。歳とってから何か始めようと思っても、飲み込みが遅なってしまうから。」とおっしゃる万年青研究家の井原さんご自身も書に絵画にと多彩な趣味をお持ちだ。私も何か始めようかとつくづく思った。とりあえず寝ることと食べることは趣味なのだ(ト)

◆農村整備シンポでは、欧州のいかにもどかさうな風景がたくさん紹介されました。それらを見ているうちに、学生時代訪れた北海道の風景が思い浮かび、また行ってみようという気持ちになった私は、家に帰ると早速、地図を取り出し、いけるかどうか分からない旅行の計画を立ててしまいました。(A)

★香りによって病気を治療するという高須さんの話には驚きました。また、TPOに合わせた香りの使用法など、大変参考になりました。しかし、対談中、高須さんの甘美な香りに思わずうっとりしてしまいがち。メモを取る手もついつい休みがち。香りの思いがけない副作用に、楽しいけれど悪戦苦闘の思い出深い取材となりました!?(M)

とやまの心象

「建築百選」以降の

心の絆を創造する

住宅建築

〈高齢化社会へ住宅好事例〉

近年、県内では建築に対して景観的な調和や、ある種のモニユメンタリテイな役割を持たせるなど、様々な意味で建築を「文化表現」の一つとして捉えるだけの認識が芽生えつつある。しかし、街に出現する建築の多くは、なぜか一様に経済性を理由にあげて、完成度の低い仮設建築と評されてもしかたないものが建てられている。しかも、その代表格に



上げられるのが住宅建築であるとは、持ち家率や敷地面積などに見られるような量的住環境の日本一を誇る富山県としてはなんとも歯痒い話である。

住宅建築は、街並みとしての景観や、一層深刻さを増す高齢化社会に伴う諸問題に対応していかなければならない難しい時代に直面している。加えて、積雪1mの場合でも約300kg/m²をこえる屋根雪への対応も迫られるなど、住宅建築に求められるものは「間取り」を考える程度のことでは片付かない様々な生活シーンに関わる問題である。それだけに、小品と言えども住宅は建築の原点である。それが、「建築は住宅に始まり、住宅に終わる」と言われる所以かもしれない。

そういう意味では、ここで紹介する福光町西町のH宅は、わずか12坪の極端な事例かもしれないが、人が「住む」とか「暮らす」という生活と、その器である建築の関わりを原点を見るには格好の作品である。しかもH宅は車椅子の生活をするために、様々な工夫がこらされており、住宅における高齢化対策の事例としても参考になる建築である。玄関付近の廊下空間を利用したりハビリティ訓練



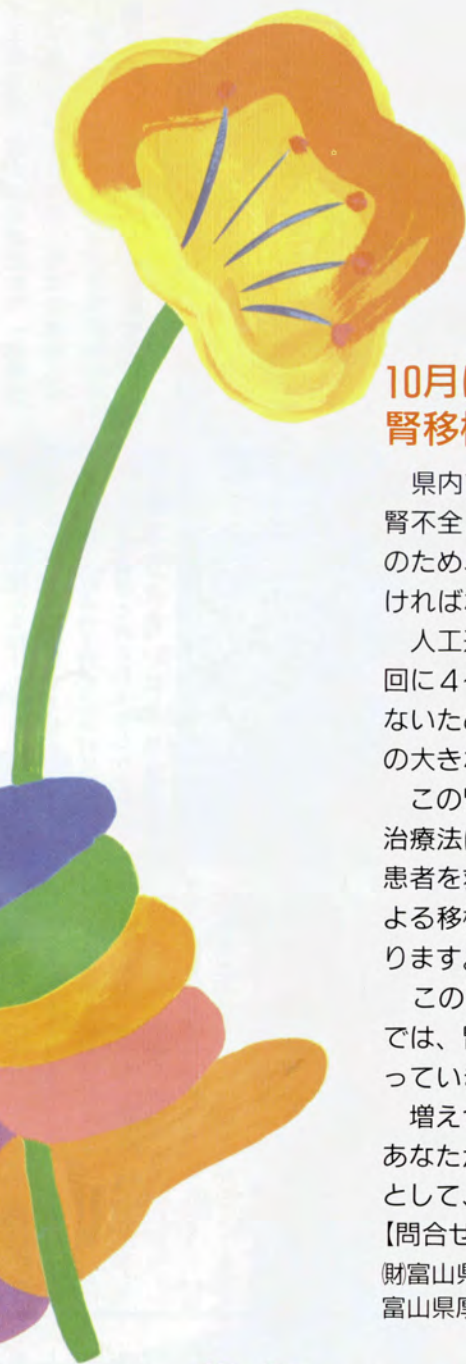
写真／風間耕司(日本写真家協会会員)
文責／岡田順一(富山エディタースタッフ)

用の手すりは、来客を迎える時にも利用される実用のデザインであり、その機能を視覚的に強く印象づけたいよう格子の仕切りを組み込み、小空間をうまくデザインしている。また、二畳に回り縁を付けた空間は、夫婦二人暮らしで夫を見守る奥さんの寝室空間だが、家の中心にあつて多目的に使われ、すべての室内を見わたすことができる。夫がどこにいても死角にならない機能と、様々な生活シーンを包み込む空間である。

この住宅は、空間の限から限まで無駄のない機能を計算した設計密度の高さでは建築家の力量を窺わせる秀作だが、なんと言っても家族愛を感じさせる心の温もりを具現化したような作品である。そこには見栄を張った装飾もなければ、広さもない。まさに、「生活する茶室」と言った感である。「喫茶」という生活を芸術の境地にまで高めた心の世界があるように、ここには心を通わす夫婦の空間がある。住宅とは、本来そういう建築を言うのかもしれない。

10月は住宅月間である。秋の夜長に考えてみたいものだ。

愛と健康の 贈りもの



10月は、
腎移植推進月間です。

県内では900人を超える方々が腎不全（腎臓の重度の機能低下）のため、生涯、人工透析を受けなければならない状況にあります。

人工透析は、週に2～3回、一回に4～5時間行わなければならないため、社会生活を営むうえで大きな制約となっております。

この腎不全を完全に直すための治療法は腎臓移植であり、多くの患者を救うには善意の死後献腎による移植を推進していく必要があります。

このため、富山県腎臓バンクでは、腎臓提供希望者の登録を行っています。

増えつつある腎不全患者のため、あなたからの愛と健康の贈りものとして、献腎に御協力ください。

【問合せ先】

富山県腎臓バンク ☎0764・36・6130
富山県厚生部医務課 ☎0764・44・3219

献 けんじん 腎



FIRST JAPAN EXPOSITION IN TOYAMA '92 第1回ジャパンエキスポ富山'92

会期 / 平成4年7月10日金—9月27日日80日間 会場 / 県民公園太閤山ランド